

typhoid, consumption, diseases, miserable, は何れも注意を要す。make us は makus の如く。put us は putus の如く。kill us は killus の如くに聞へるであらう。

The captain quickly ordered every passenger forward into the bows of the vessel, out of the reach of the heat and suffocating smoke. The crew then attempted, with hose and pump, to keep the fire in hand; but already, it appeared, the flames had obtained the mastery, and their attempts came too late.

cap'tain は accent が最初にある爲め、tain は極めて obscure に發音す。Chieftain も同様之れを -tain の如く云ふは誤り。bow の ow は cow の ow と同様で bow (ボウ) と云ふときは「弓」。mastery の spell に注意を要す。

書取が出来上れば Punctuation を付けなければならぬ。大抵の試験では Full Stop だけは試験官が云つてくれる。序に云ふが試験官が full stop と云つた時に後生大事に full stop と書いた學生がある!!

### アクセントに就て

(1) アクセントの切り方は商科大學は勿論高等學校に於ても課せらるゝやうになつたが、追々各官立學校に於ても課せらるゝ傾向となつて來たやうに思はれる。これは誠に喜ばしい現象で、本來ならば、疾くに之れが試験がある可きであつたのである。商科大學教授某氏の説には accent は單語を組織する綴(シラブル)の何づれか、強く發音せらるゝことを示す符號であるが、accent ばかりで各單語が correctly に發音せらるゝものではなく、各母音や子音の發音法も正確でなくてはならぬもので、入學試験に於ても、こゝ迄試験せねばならぬが、先づ accent だけでも、と云ふ工合で、さてこそ accent の試験をすることになつた次第である。

(2) 然るに各單語の accent が正確であつても各 sentence を讀む上に於て各語の強弱があることも本來ならば心得ねばならぬ。たとへば

I saw a dog

と云ふ文を讀むに、dog を強く發音すると、「私は犬を見ました(猫でもない、狐でもない)」と云ふ意となり。I を強く發音すると「私が犬を見ました(あなたでもない、彼でもない、山田でもない、田中でもない、私が見たのだ)」となり。Saw を強く發音すれば「私は犬を見たのだ(ぶつたのでもない、殺したのでもない、目に見たのだ)」と云ふ意になるので、これを sentence stress 「文中の強所」と云ふのであつて、これをも心得ねばならぬ次第となるのである。



(3) 然し、かゝる事は目下の處中學生に試験をするのは困難であつて、中等學校の教師自身すら中には上手に sentence stress を使ひ分けて reading し得る人は少いのであつて見れば、先づ先づ accent だけでも試験するやうになつたのは、我國英語受験界の一大進歩と云はねばならぬ。

(5) そこで accent を試験するやうになつた以上、學生が accent に氣を配り始めたから、發音の上のみならず、單語暗記法に一大革命が生じて來ると思ふ。それはどう云ふ理由かと云ふに、一語言語は frequent repetition 「度々繰返へすこと」によりて、始めて記憶せらるゝものであるから、目で見ただけの單語などは却々覚えられないものでない。それを發音を疎かにして置いて、何か便利な單語暗記法もがなと考へた揚句が、語原應用の單語暗記と云ふ事になつて、近來は此方面に無暗に首をつツ込んで居る學生もあるが、語原は語原として價值あるものには相違ない。本講座に於ても、一講座を設けてある位であるから重要には相違ないが、さて此語原を暗記するにしても發音せねばならぬわけで、要するに發音は語學の根本をなして居るものであると信する次第である。

(5) さてアクセントとは何ぞやと云ふに、凡そ語には一と綴り、二た綴りと云ふ風に色々の綴りで成立つて居るものがあるが、一綴りの語は問はず、二た綴り以上になると、其各綴りを發音するに當りて、いづれか聲音に強弱を生ずる。此強い處を示すのが所謂即ちアクセントなのである。處でアクセントの切り方だが、それを學ぶには、綴りとは何ぞやと云ふことを心得て置かねばならぬ、そこで

one syllable

(6) 綴り (syllable) とは何ぞやと云ふに、試みに机上の Concise Oxford Dictionary を開いて見ると unit of pronunciation forming a word or part of a word and containing one vowel sound and often consonants preceding or following (or preceding and following) this とある。これでは諸氏には御分りになるまい、つまり、「綴り」とは一語又は語の一部を形成する發音の單位にして、中に必ず一個の母音を含み此前か後に子音がある(又は此前後共に子音がある)、と云ふのが定義である。たとへば peanut は pea と nut の二綴りで出來て居る。此 pea なり nut なりは發音の、それぞれ一單位である。一單位とは一ト息で發聲せらるゝ一トカタマリと云ふことに解する。而して pea には ea (イー)と云ふ母音、nut には u(ア)と云ふ母音を含み pea には前に p なる子音があり、nut には u の前後共に n t なる子音があるでせう。上の定義は仲々よく出來て居る。即ちシラブルとは一ト息で發音せらるゝ文字の集合で必ず一個の母音を含むと大ザツバに解してよい。

(7) 俗説一語を編成するシラブルの中でどれか強く、又どれか弱く發音せらるゝが其強く發音する處のしるしをアクセントの符號と云ふのである。

(8) 故に one syllable の語、即ち monosyllabic word (單綴語) は一人舞臺だから、音の強弱はない。二綴りの語、即ち dissyllabic word 以上になると accent が生ずるのである。學生は往々 one syllable の word をも妙にアクセントを附けて發音することがある。如何に長くても one syllable と見做すこともあり。



如何に短くとも one syllable, two syllables と見ることもある。

one syllable.....dog, cat, we, I, you, three, just, judge, though, etc.

two syllables.....ba-by, on-ly, hap-py, etc.

three syllables.....i-de-a, re-al-ly, hap-pi-ly, etc.

four syllables.....in-fin-i-tive, in-regu-lar, etc.

扱 accent を附けるには、大体、此つゝりの切り方を承知なくてはならぬが、たとへば *incredible* には **インクレディブル** と發音して、

*in-cred'i-ble*

と云ふ風になる、これを符號で示す時に

*inc-redi'-ble*

と切つたら、それこそ綴りの觀念の無いことを暴露して了ふ。これは頗る危険である。此綴りの切り方は講座の前々號あたりで十則として説いてあるが、何んでもアクセントは、綴りの切れ目にしるさねばならぬものであることを呉々も注意して置く。我國で發行した大抵の字書は皆此方式でアクセントがしるされて居る。これを Webster 式と云ふて、米國の Webster's Dictionary の採れる方法を真似たのである。

(9) 處が、此切り方はいくら規則があつても仲々面倒なもので學生は誠に難儀をする。そこで一つ旨い切り方が西洋から傳はつた。それはアクセントは何か一どつのシラブルが強く發音せらるゝことを示すものにして、シラブルの中には一個の母音がある以上、其母音の頭に (') の印を附ければよい。と云ふ方法である。かうすればシラブルの切り方に迷

*infinitive*

115

つても母音を見落すことは無いから、そこへ附ければよいことになる。たとへば

*in-cred'i-ble*

とある可きを

*inc-redi'-ble*

とやつては大變だから

*incredible*

と云ふ風に e の頭にしるしを附けて置くのである。諸君何とよい福音でせう。此やり方は商大でも高校でも用ゐてよろしい。唯茲に斷つて置くのは、同じ用紙にどちらか定つた點づけ方を一つ用ゐねばならぬことで、或語には Webster 式を、他には今一つの式をと云ふ風にやると、兩方共ゼロになつて了ふ(商大阿久津教授談)。

(10) 故に諸氏は字書では Webster 式を見ても、附ける時には簡便法を用ゐればよいことにきめて了ふがよい。著者の友人商大五味氏の談によると *income* と云ふ語に *in'come'*

と兩方つけて、「いづれも通ず」なんてごまかして置く學生がある。こんなことでだませる人は日本中の英語教師でも一人もありません。尤もアクセントは西洋の或る字引には、アクセントのあるシラブルの後にしるしを附けないで前に附けるのがある。たとへば

*in'come*

なら Webster 式だが

*'income*

とやるのである。又

*'income*



と云ふ風に點を附けたのもある。それよりか

income

とやつた簡便法が一番誤解されなくてよろしい。我國の英學者は大抵以上の四式は知つて居るが。學生は Webster 式しか知らぬと思ふ。それは英和字書が大抵此式であるからである。君子須らく危きに近づく勿れ。宜しく簡便法に従ふ可きである。

(11) さて愈本則に這入るのだが。其前に一般の發音符號を通覽して下さい。此發音符號にも色々あるが Webster 式が一番廣く通じて居る。中には近頃發音學 (phonetics) と云ふやつを。かつぎ廻して Association Phonétique International (アソシアーション。フオネチク。アンテルナショナル) と云ふ萬國發音學會所定の符號で發音を説く人もあるから念の爲め ( ) の中に記入して置く。

(æ)	ǣ (エア).....	Jānuary, cǣt, canǣl, etc.
(ei)	ē (エイ).....	nātion, potāto, bāby, etc.
(a:)	ā (アー).....	ārm, bārk, ārt, etc.
(a:)	ǎ (ア).....	ǎsk, mǎss, mǎster, etc.
(o:)	ǫ (オア).....	wǎter, fǎult, ǎll, etc.
(o)	ǫ (オア).....	wǎt, wǎsh, defǎult, etc.
(eə)	ǎ (エア).....	pǎrent, ǎir, stǎirs, etc.
-----		
(e)	ě (エ).....	pét, lét, nět, stép, etc.
(i:)	ē (イー).....	bēen, sēe, bēe, lēe, etc.
(o:)	ē (ア).....	ēarly, ērr, ēarrest, etc.
(ei)	e (エイ).....	eight, obey, etc.

i (イ)	.....	it, hit, kit, hip, etc.	(i)
i (アイ)	.....	fire, sire, item, etc.	(ai)
i (イー)	.....	machine, fatigue, etc.	(i:)
i (ア)	.....	stir, fir, circumstance, etc.	(o:)

Ⓜ i は e に等し

ö (オア)	.....	nöt, öx, böx, löt, etc.	(o)
õ (オウ)	.....	nöte, böat, mötor, etc.	(ou)
ó (ア)	.....	cólor, cóme, sóme, etc.	(A)
ö (ウ)	.....	lqse, mgve, prqve, etc.	(u:)
o (ウ)	.....	wqman, wqrsted, etc.	(u)

ü (ア)	.....	sün, cüt, nüt, etc.	(A)
-------	-------	---------------------	-----

Ⓜ ó に等し

ü (イ)	.....	püre, süre, lüre, etc.	(ju:)
u (ウ)	.....	cruel, true, blue, etc.	(u:)
u (ウ)	.....	put, pull, bullet, etc.	(u)
û (ア)	.....	ûrban, occûr, fûr, etc.	(o:)

Ⓜ e, i に等し

oo (ウ)	.....	böök, töök, nöök, etc.	(u)
--------	-------	------------------------	-----

Ⓜ u に等し

oo (ウ)	.....	bööt, hööf, rööf, etc.	(u:)
--------	-------	------------------------	------

Ⓜ u に等し

ÿ=i	.....	dÿnasty, sÿmpathy, etc.	(i)
-----	-------	-------------------------	-----

ÿ=i	.....	hÿdroplane, Julÿ, etc.	(ai)
-----	-------	------------------------	------

以上の外二三あるも。發音符全部を使ふ目的でなく accent 用法を説明する上に於て時々使ふ目的のみに上記の分だけを掲げて置く。勿論以上のみで大體には通じて誤らぬと信ずる。尙萬國發音符號は上記の程度では無論分り難いが試にあげたまでである。

✓1) tion, sion で終る語は其前が強い



- (a) { condition, direction, preparation, position, nation,  
ambition, action, relation, connection, extension,  
discussion, injection, expansion, elocution, motion,  
affection, situation, preposition, lotion, excursion,
- (b) occasion, decision, confusion, explosion.

これは語尾「ジュン」とひやく。坊間の書に「ジャン」とあるは當らず。「ジュン」のユが極めて軽く發音された音に近い。「順」の字の音のやうに發音するのである。tion も「春」の字の音のやうに發音するのが原音に近い。これはジャバン。メール主筆英人プリンクラーと云つたら。我國でも有名な人であつたが。此人が云ふたことで。著者も成程と感心して居る次第である。

- (c) question, suggestion, combustion.

此 tion の前に s がある時は「チュン」とひやく。「チャン」と坊間の書乃至は通信教授などで言ふて居るが「チュン」の方が原音に近い。試に諸氏の舊師諸彦に尋ねて御らんない。「ユ」音の注意は(b)の場合にも同じ。

- ✓(2) .....cian, tian, sian で終る語は此前が強い。  
musician, politician, Egyptian, Persian, Eurasian,  
Alsatian, Asian.

此 cian, tian, sian 等も「春」と發音す。(shn).

- ✓(3) ... ..cial tial で終る語は此前が強い。  
special, official, artificial, essential, spécial, com-  
mercial, nuptial, facial, facial, etc.

tial, cial は「シユル」(shl)とひやく。  
celestial, bestial

此 tial は「チユル」(chl)とひやく。

mus, i suar  
fal

- (4) ... ..cious, ceous, scious, tious, sious 等の音で終る語は此前が強い。

spacious, precious, efficacious, conscions, concien-  
tious, avaricious, ambitious.

- (5) .....cience(cy), cient, science, tience, tient 及其類音で終る語は此前が強い。

sufficiency, efficiency, conscience,  
patience, impatience, proficient  
ancient, sufficient, proficiency

- (6) .....gion, geon 及其類音で終る語は此前が強い。

religion, region, legion, dungeon,  
contagion, pigeon, surgeon,

- (7) .....gious, geous 及其類音で終る語は此前が強い。

contagious, religious, gorgeous,  
courageous, advantageous, disadvantageous.

- (8) .....teous, cheon で終る語は此前が強い。

luncheon, escutcheon, righteous,

- (9) .....logy で終る語は此前が強い。

biology, analogy, zoology, theology, apology, geo-  
logy, etymology, eulogy, archaeology, ethnology,  
philology, anthology, anthropology, psychology,  
mythology, conchology, entomology, etc.

- (10) .....graphy で終る語は此前が強い。

geography, photógraphy, telegraphy, topography,  
biography, autobiography, lithography, orthography

- (11) .....metry で終る語は此前が強い

geometry, trigonometry, hydrometry, symmetry



- (12) .....meter で終る語は此前に accent がある.  
barometer, diameter, geometer, thermometer,  
hydrometer.
- (13) .....omy, ony で終る語は此前が強い  
economy, euphony, astronomy, anatomy, antimony.  
☞ Ceremony, matrimony は上例と異りて、前者  
は e 後者は a に accent があることを認め  
るであらう。
- (14) .....pathy で終る語は此前が強い  
sympathy, antipathy, apathy, telepathy.
- (15) .....acy で終る語は前が強い  
aristocracy, democracy, supremacy,  
☞ advocacy, accuracy は例外である
- (16) phony で終る語も同様  
telephony.
- (17) sive で終る語も同様
- |             |                |              |
|-------------|----------------|--------------|
| abusive,    | extensive,     | expressive   |
| oppressive, | apprehensive,  | conclusive,  |
| intensive,  | comprehensive, | decisive     |
| defensive,  | offensive,     | exclusive,   |
| explosive,  | possessive,    | progressive, |
| expensive,  | excessive,     | diffusive.   |
- (18) ical で終る語も同様  
anatomical, critical, electrical, geological, geomet-  
rical, heretical, mathematical, meteorological, arith-  
metical, academical, geographical, biographical,  
botanical, zoological, physical, statistical, politi-  
cal, etc.

- (19) ity, ety. ify, efy 等で終る語も同様  
ability, activity, adversity, ambiguity, antiquity,  
assiduity, authority, curiosity, capacity, com-  
munity, possibility, anxiety, society, variety,  
nicety, stupidity, sincerity, familiarity, am-  
plify, dignify, diversify, fortify, justify, magnify,  
modify, personify, petrify, sanctify, specify, verify,  
signify, solidify, purify, etc.
- (20) ics, ic で終る語も同様  
arctic, Atlantic, Pacific, artistic, athletic, auto-  
matic, characteristic, classic, energetic, ethic,  
logic, organic, mathematics, physic, scientific.
- (21) ate で終る語は三綴以上の場合は大抵後より  
第三綴を強くす。  
(a) graduate, associate, abbreviate, appropriate, aviate,  
accentuate, insinuate, differentiate, etc.  
(b) accommodate, affectionate, arbitrate, educate, esti-  
mate, fortunate, intimate, imitate, mediate, ope-  
rate, assimilate, advocate, adequate, anticipate,  
appreciate, cultivate, nihilate, etc.
- (22) 但 ate の前に子音が二つ以上あれば終末よ  
り第二位を強くす。  
consecrate, contemplate, inundate, incarnate, il-  
lustrate, concentrate, compensate, promulgate,  
demonstrate, alternate (形), consummate (形), etc.
- (23) (a) al で終る語は最終より第三位が強し。  
aerial, annual, gradual, intellectual, continual,  
individual, admiral, general, animal, festival.



hospital, nominal, original, occasional, capital, numeral, )

【例外】 arrival, denial, disposal, disloyal, upheaval, perusal, unreal, spiritual, etc.

(b) al の前に子音二個あれば最終より第二位強し。

abnormal, accidental, external, immortal, ornamental, fundamental, autumnal, elemental, internal, external, etc.

(24) ance, ence, ant, ent の語尾を有し。その前に母音又は子音一個あれば末尾より第三位強し。

experience, continuance, influence, affluence, convenience, residence, magnificent, accident, diligence, eloquence, reverence, temperance, utterance, deliverance, intolerance, etc.

(25) ous で終る語は大抵下の法則により accent を發見し得可し。

(a) ous の前に子音二つあれば末尾より二位に強音あり

stupendous, enormous, disastrous, momentous, stupendous, tremendous.

【例外】 hazardous, ludicrous

(b) ous の前に母音あれば (又は子音一個あれば) 末尾から三位に強音あり。

arduous, curious, studious, injurious, ambiguous, meritorious, luxurious, virtuous, simultaneous, various, dangerous, generous, numerous, prosperous, barbarous, etc.

【例外】 (a) 下の語は ous の前に子音一個あるも例外として。末尾より第二位に accent あり

decorous, sonorous.

(b) 下の語は ous の前に母音あるも末尾より第四位に accent あり

spirituous

(26) tive で結る語は大抵下の法則による

(a) tive の前に母音ある時は末尾より第三位又は稀に第四位に accent を有す

primitive, sensitive, positive, indicative, declarative, imperative, negative, affirmative, infinitive, transitive, intransitive, demonstrative [第三位]

communicative, continuative, accumulative, authoritative, nominative [第四位].

【例外】 locomotive, creative [第二位]



(b) *tive* の前が子音なれば末尾より第二位に accent あり

*objective, deceptive, distinctive, collective, subjunctive, reflective, attractive, attentive, respective, destructive, constructive, deductive, inductive.*

【例外】 *substantive, adjective* [第三位].

(27) *ism* で終る語は大抵初めから数へて第一の綴が強くなる

*atheism, socialism, nationalism, aphorism, communism, journalism, mechanism, militarism, nihilism, naturalism.*

【例外】 *materialism, imperialism* [末尾より第四位]

(28) *ist* で終る語は大抵 *ism* と同じである

*scientist, physicist, naturalist, botanist, socialist, artist, oculist, militarist, journalist, communist, nihilist.*

【例外】 (28) と同様 *materialist, imperialist* など.

(29) *ite, ile, ine* で終る語で *e* が音がなければ初綴に accent がある

*opposite, apposite, definite, favorite, hypocrite, requisite, enquisite, hostile, sterile, fertile, reptile, textile, servile, mercantile, exile, famine, feminine, discipline, masculine.*

(30) *self* で終る語は末尾が強い

*oneself, yourself, yourselves, itself, etc.*

(31) *+able, +ible* の公式の語は其根語の accent の通りに accent がある

*envy + able*

*enviable*

*practice + able*

*practicable*

*desire + able*

*desirable*

其他の例を掲げると

*accessible, accountable, attributable, answerable, available, acceptable, receivable, reasonable, admissible, intelligible, irresistible, agreeable, discernible.*

【例外】 *admirable, applicable, formidable, amiable, reputable, preferable.*

(32) *ian, ean* で終る語は末尾から第三位が強い

*grammarian, vegetarian, pedestrian, disciplinarian, equestrian, Mediterranean, subterranean.*

(33) *less(ly), lessness, ful(ly), fulness* などで終る語は其前が単綴語である時に限り其初めのシラブルに accent を置く。たとへば

*use + ful* は *useful*

*child + less* は *childless*

處が *ful* 等の前の語が two syllable 以上であれば根語の accent に従ふ。たとへば

*meaning + less* は *meaningless*

*pity + ful* は *pitiful*

此規則は普く通ずる。序に *ness* なる suffix は如何なる語につけても全体の accent に影響はしない。

*proportion ..... proportionable.....*

*proportionableness*

どうです。accent の位置にかはらないことが解るでせう。序乍ら *improportionablenesses* は英語の *longest*

44 (最高)。



word であります。(他にも *incomprehensibilities* と云ふのもある)。

(34) .....+ing の形は前の綴りに accent がある。  
going, doing, writing, etc.

(35) ment の語尾の時も前の綴りに accent がある  
basement, statement

【注意】(33) と (34) の場合で ing, ment の前が二綴以上の時は根語の accent そのまゝである。兎に角 ing や ment には accent はないものと心得てよろしい。

engage..... engaging..... engagement  
govern..... governing ... government

(36) ure で終る語も亦其前の綴りに accent がある

picture, structure, culture, nature.

ure の前が二綴以上の時は其初頭に accent がある

furniture, literature, agriculture,  
sericulture, architecture, sculpture,  
miniature, aperture, temperature

(37) age で終る語は其前が單綴語なればそれに accent がある

manage, damage, village, etc.

age の前が二綴以上であれば根語の accent に従ふ

carry..... carriage; orphan..... orphanage  
assemble..... assemblage, etc.

(38) 「any, every, some+根語」の形式の語は初めに accent がある

anybody, everybody, anywhere,  
somewhat, sometimes, something,  
somehow, etc.

(39) ever の語尾を有する語は常に ev に accent がある

wherever, whichever, whatever,  
whichever, wheresoever, etc.

(40) i の字が「イー」の音を有する語は此に accent がある

police, policeman, machine, machinery, fatigue,  
magazine, caprice, unique, technique, antique,  
physique, etc.

(41) 月火水木金土の名は第一綴に accent がある  
Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday,  
Thursday, Friday, Saturday,

其他 day には accent は決して附かぬと覚えて置けば

birthday, holiday, Christmasday

などが推断出来やう

(42) 「a+根語」の時は根語の方に accent がある。かゝる語は澤山ある。少しあげて見る

aback, aboard, ablaze, alone, ashore,  
awhile, aside, astray, etc.

(43) 二綴の語には下のアクセント通則がある

a 動詞の時は語尾に

b 名詞. 形容詞の時は初頭に

下の表を比較音讀せよ

sim IV Monday



Verb	Adjective	Noun
absent	absent	absence
présent	présent	présence
abstract	abstract	abstract
concrete	concrete	concrete
cement	.....	cement
concert	.....	concert
confine	.....	confine
conflict	.....	conflict
subject	subject	subject
object	.....	object
	etc.	etc.

(44) 下の動詞は語尾に accent がない。語尾から第二位が強い

(1) en, on で終るもの

happen, ripen, open, imprison,  
reckon, summon, reason, lighten,  
frighten, threaten, etc.

☞ すべて en で終る past participle は en の前に accent がある

gotten, spoken, written, ridden, etc.

(2) ish で終るもの

finish, punish, establish,  
admonish, extinguish, distinguish,  
accomplish, publish, perish, etc.

(3) it の語尾

inhabit, profit, visit,  
edit, limit, etc.

(4) er, our, ur 等で終るもの

number, wonder, wander, surrender,  
deliver, murmur, favour, enter,  
cover, rover, differ, offer, etc.

(5) le, el で終るもの

model, shovel, travel, level,  
startle, struggle, wrestle, belittle  
mingle, tinkle, etc.

(6) age の語尾を有するもの

encourage, discourage, damage,  
manage, rummage, disparage, etc.

【例外】 engage, incage, enrage,

(7) tice, tise で終る語

practise, notice, unnoticed, apprentice, etc.

(45) ary で終る語は凡そ語頭のシラブルに accent がある

library, momentary, secondary,  
adversary, arbitrary, January,  
February, necessary, voluntary  
stationery, stationary, dictionary,  
ordinary, missionary, customary,  
etc.

【例外】 anniversary, apothecary など。

#### アクセントの練習上類推の必要に就て

アクセントを練習するのに何が一番大切であるかと云ふに、類推位必要なものはない。以上掲げた規則は大略にすぎないが、諸氏は此規則を一々幾何学の定理の如くに暗記をすれば、それは爲



さぬよりも増しであるとしても、語學練習の法ではない、寧ろ各規則の下にある語を何遍も口で読んで頭の中に各規則を代表する語を標準として覚えて了ふに限る。たとへば reader で ea に accent があることを覺へたならば leader にも ea に accent があることは類推で知れる。

時としては類推法が誤まれる時には、類推も當てが外づれる時がある。たとへば practise で語尾が se であるから末尾から第二位なる a に accent があるなど、思つて advise (動詞) と讀んではならぬ。これは語尾 ise と se との區別を混同したから起る誤で寧ろ advise を覺えて chastise を類推するが増しである。

#### アクセントの移動に就て

grammar には a にアクセントがあるが grammarian では次の a へアクセントが移る。metropolis が metroporitan と移動するが如きことも讀書の際注意す可きである。故に一般法則を機械的に暗記しては役に立たぬものと思ふのである。以上掲げた規則を中心として其他の例外は即ち例外として、規則以外として記憶せねばならぬ。

大正十四年六月拾日 印刷

大正十四年六月拾四日 發行

### A COMPLETE COURSE IN ENGLISH

For Student's Preparing for Higher Examinations

#### 高等受験英語各科講義集成

定 價 金 二 圓

#### == 著作權所有 ==

編 纂 者 小 山 桂 一 郎

發 行 兼 發 行 者 興 文 社

代 表 者 鹿 島 長 次 郎

東 京 市 日 本 橋 區 馬 場 町 二 丁 目 一 番 地

發 行 所 株 式 會 社 興 文 社

東 京 市 日 本 橋 區 馬 場 町 二 丁 目 一 番 地  
振 替 貯 金 口 座 東 京 一 八 四 四 番



27. 9. 5



830.7  
K097  
⑦

終